

高石市 広がれ

助け合いの輪

「たかいし生活支援サポーター
「町の便利屋さん」

ちよつとした 困りごとを援助

住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、ご近所のちよつとした困りごとに対して有償の助け合いを行う「町の便利屋さん」が、平成28年4月に活動をスタートさせました。

「介護保険では適用外の日常生活上のちよつとした困りごとに関する相談が寄せられる中、どのようなことで解決するか、そのつなぎ先が課題でした」と、高石市社協（以下、社協）事務局次長の馬渡浩二さんは、活動を生み出した動機を語ります。



毎週木曜日はボラ連主催の「おしゃべりカフェ」がオープン。会員獲得のきっかけにもなっている

社協では、今後の介護保険制度の改正も見据え、住民主体の有償の助け合いに着目。高石市ボランティア連絡会（以下、ボラ連）と共に先進地域の視察や、支援を担う側の「協力会員」の養成講座を実施しました。特徴は、支援を受ける側の「利用会員」も含めたボランティアグループを組織化し、支援する側にもまわること狙いとしている点です。

「町の便利屋さん」では、ボランティアが住民や関係機関からの相談に対応し、自宅訪問や利用料金の提示、活動のマッチングを担っています。

また、社協からボランティアセンターの一角を執務や相談スペースとして借り、財源はマッチング件数に応じた年間数万円の助成金と会員の入会費で賄っ

ています。

現在、協力会員は43人、利用会員は96人と着実に広がり、さらに活動件数は、今年の4月～7月の合計が244件と、すでに昨年1年間並みの実績に急成長しています。

相談には確実・誠実に 応える

活動が広がっている秘訣について、グループの会長でありコーディネーターの銭廣幸壮さんは「社協に裏打ちされた安心感と、相談に対して『断らない』『迅速に対応する』ことを心がけ、信頼関係をつくってきた成果」と話します。

銭廣さんは、定年退職を機に、初めてボランティア活動に参加。「感謝されることや、活動中のおしゃべりを通じた心の通いが、やりがいと楽しみにつながっている」と話します。

グループの立ちあげに関わり、自身も協力会員であるボラ連会長



左から、高山さん(社協)、福村さん、満部さん(社協)、銭廣さん、中村さん、馬渡さん

相談の種類と件数

(平成28年度実績)

支援種類・区分	件数	比率 (%)	内容
屋外支援	29	26.4	草取り・枝切り等
体力支援・技術支援②	28	25.5	家具移動・粗大ごみ・網戸障子・家具修理等
屋内支援	19	17.3	室内掃除・衣類の整理等
技術支援①	14	12.7	蛍光灯・水道パッキン交換等
買い物	5	4.5	食品・衣類等
その他	15	13.6	話相手・代筆その他
合計	110	100	

多様な暮らしの困りごとに対応

の中村牧子さんは、「独居高齢者への声かけや、地域のサロンに出かけて活動を紹介すると、困りごとをつぶやく人がいらっしやる。今後、コミュニティカフェを通じて、より活動を知らせていきたい」とアウトリーチの大切さを語ります。

また、社協の福村壽之事務局長は、「住民が社協へ気軽に立ち寄れる雰囲気づくりや、男性が多い場所へ出向き協力会員の獲得に努めるなど、町の便利屋さんを側面から応援していきたい」と抱負を話します。

今後の展望について銭廣さんは、「地域の組織や他のボランティアと連携し、活動の輪を広げていきたい」と熱く語り、これからの展開に大きな期待が寄せられます。

太子町

第1回 社会福祉施設 連絡会を開催!

本年3月27日に設立された太子町社会福祉施設連絡会が7月26日、第1回目の会議を開催しました。この連絡会は町内の10法人11施設が会員となり、事務局は太子町社協が担います。

あいさつで連絡会会長である(福)太子椿の会・つばき作業所の阪本喜久夫理事長は、「社会福祉法人・施設が種別を超えた連携を図り、太子町に見合った事業に取り組んでいきたい」と意気込みを語りました。

記念講演では、府社協の井手之上優常務理事が、「制度の狭間や貧困の問題に対して『我が事・丸ごと』をキーワードに、社会福祉法人の存在感を発揮することが重要」と社会福祉施設連絡会設立の意義について話しました。

同会では、今年度はボランティア体験プログラムへの協力、赤い羽根共同募金(職域募金)への協力、認知症サポート見守り声かけ訓練への協力などに、まずは取り組んでいくこととしていきます。

※府内41市町村中31カ所で設置(8月末現在)